

機関番号：32663

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20520623

研究課題名（和文） 日本・トルコ関係史の基礎的研究

研究課題名（英文） Basic Studies for the Relationship between Japan and Turkey

研究代表者

三沢 伸生（MISAWA NOBUO）

東洋大学・社会学部・教授

研究者番号：80328640

研究成果の概要（和文）：本プロジェクトは日本・トルコ関係史にかかわる基礎的史料の発掘・収集を行い、データベースを構築しながら、従来看過されてきた関係史の推移の解明に成果をあげた。日本語史料では、日本語新聞・雑誌史料、大久保幸次氏関連の写真史料・稿本史料、在日タタール系トルコ人の個人アルバム・書簡を発掘・分析した。トルコ語史料ではイスタンブール総理府古文書総局（BOA）所蔵の現在閲覧可能な約1750点の日本・トルコ関係文書の全てを電子複写収集、オスマン語逐次刊行物・新聞の現物・デジタル収集を行い、分析した。

研究成果の概要（英文）：We achieved the detailed facts about the relationship between Japan and Turkey, which was overlooked for a long time in both countries, depended on the constructing the basic database of the various source materials. As the Japanese source materials; various Japanese newspapers and periodicals, the private sources belong to Prof. *Koji ÔKUBO*, the photographs and letters of Tatar-Turkish exiles in interwar Japan and so on. As the Turkish source materials; about 1750 items of official archive documents of the Ottoman Archive in Istanbul (BOA), various the Ottoman newspapers and periodicals and so on.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：トルコ、タタール、イスラーム、オスマン帝国、回教政策、大アジア主義、エルトゥールル号事件、日本商品館

1. 研究開始当初の背景

日本とイスラーム世界との関係史は国内・国外において長らく看過されてきた研究課題である。明治維新以降に創始された日本によるイスラーム世界への接触は、やがて戦

前・戦中期の「回教政策」の枠内に収束していき、戦後において全面的に否定されるに至った。このため現代の日本においてイスラーム世界との関係は戦後復興における石油輸入に始まるかのように認識されている。戦後

において戦前・戦中期における「回教政策」立案・実施の詳細は学術的に精査されることなく封印されてしまったのである。一方、同じく近代のイスラーム世界では中核を担ったオスマン帝国が、内からは構成諸民族の独立運動と外からは英仏を中心とするヨーロッパ列強の進出とによる混乱のなかにおいて第一次世界大戦によって瓦解し、ヨーロッパ列強の植民地体制下に組み込まれた「中東諸国家体制」へと移行した時期にあたる。このため、イスラーム世界からは非ヨーロッパ列強への対抗手段として日本への接触を図られていた。しかし日本との関係が十分に構築される前に第2次世界大戦へと至り、戦後に独立を果たした新興の中東諸国家では、戦前のように日本との関係を構築する必要性も消失してしまった。こうした背景のもとに近現代における日本とイスラーム世界との関係は、国内・国外において長らく研究されることがなかったものの、ようやく近年その重要性が認識されて複数の研究が始動している。本研究もこうして研究動向のもとに日本とイスラーム世界との関係史の学術研究の一環として立案されている。

イスラーム世界の中でもトルコに限定して日本との関係史を対象とするのは次の理由からである。現在の日本の研究プロジェクトでは、日本の「回教政策」の再評価を中心課題として、中国・韓国・インドネシアといった東アジア・東南アジアにおけるイスラーム教徒との関係が主たる課題とされており、イスラーム世界の中核である西アジアのイスラーム教徒との関係が十分に研究されていない。単に日本を視座に置くのではなく、日本とイスラーム世界との関係を視座に置くとすれば、日本とイスラーム世界の中核地域たる西アジアとの関係を研究することが急務である。近現代において西アジアの大部分はオスマン帝国（1299～1922年）によって占められ、「スルタン＝カリフ制」の着想のもとに全イスラーム世界はオスマン帝国の君主たるスルタンのもとに精神的に統合されるとされていた。前近代においては陸海のシルクロードを介してイスラーム世界と東アジアとの交流がみられていたものの、近代におけるヨーロッパの台頭以後、その関係は途絶えがちに陥った。近代に至り明治維新以降、日本がイスラーム世界との接触を積極的に試みだすことによって両者の関係構築が新たに試み始められたのである。すなわち近代に創始された日本とオスマン帝国（のちのトルコ）との関係は単なる両国間の関係に留まらず、西アジアを中心とするイスラーム世界と、日本さらには東アジアという2つの異文化世界との関係を再構築するものでもあり、日本とイスラーム世界との関係史のなかでも重要な研究課題である。

研究代表者は、いくつかの研究プロジェクトならびに内閣府中央防災会議下の専門調査委員会小委員会に参画して、日本とオスマン帝国との関係構築の契機である1890（明治23）年の「エルトゥールル号事件」を日本・トルコ双方の文書史料を発掘しながら解明してきた。その過程において、両国の関係史が重要でありながら、基本的な事実関係ですら未だに十分に検証されておらず、関連する史料の発掘・整理・分析も非常に遅れている現状を見てきた。特に関連する文書史料のうち幾つかは、戦災や行政機構の変革により喪失してしまったものが少なくない。こうした経験から日本・トルコの双方において急ぎ史料の発掘・収集・整理を行いつつ、学術研究を推進しながら、その重要性を広く公にしていくなかで必要性を痛感し、本応募プロジェクトを着想するに至った。本研究によって従前の日本とイスラーム世界との関係にかかわる地域研究の不足分を補い、発展に寄与させることが可能となる。

2. 研究の目的

本研究は、日本・トルコ関係史を歴史学研究として学術的に研究する上において不可欠となる基礎史料の発掘・収集を行いデータベースを構築しながら、従来まで学術的研究の俎上に取り上げられることが稀有である日本・トルコ関係史の推移過程を明らかにすること目的とする。

具体的には、第一に日本とトルコの双方において明治時代に創始された日本とトルコとの関係史にかかわりながら埋没してしまっている史料の探索・発掘・収集を行うことにある。対象とする史料は、基本的に両国の公文書類などの1次史料と、近現代の新聞・雑誌などの2次史料とである。両史料の組織的な収集による体系的データベースの構築が望まれる。そこで日本・トルコの双方において新聞・雑誌を徹底的に複写収集して、時系列的な日本・トルコ関係史の推移過程の年表形式に整理する。また史料を電子画像化して、二次使用が可能にすると共に、史目録を作成して、電子媒体・目録のよるデータベースを構築する。

上記の一連の作業を通じて、史料に依拠した日本とトルコ関係史の全体像を提示し、日本とイスラーム世界との関係全体の中における、日本とトルコ関係史の果たした役割を明らかにしようとするものである。

3. 研究の方法

まず研究の前提となる、日本・トルコ関係史の史料データベースを構築するために、研究体制として「日本語史料部門」と「トルコ語史料部門」の2つに分けて、トルコにおいては研究代表者と知己である複数のトルコ

人研究者を研究協力者と迎え入れて、共同で日本とトルコの双方において日本・トルコ関係史にかかわる史料を徹底的に発掘・複写収集・分析調査を行う。

(1) 日本語史料部門

本部門においては、1次史料(文書類)と2次史料(新聞・雑誌など公刊されたメディア史料)とに区分しながら、両者の探索・収集を並行して進める。

1次史料として、日本・トルコ関係史の起点であるエルトゥールル号事件(1890年)、戦前・戦中期にソ連から満洲を経て日本に亡命してきた在日タタル系トルコ人の活動、彼らと接触して日本におけるトルコ研究の創始者となった大久保幸次(1887~1947年)氏関連私文書・公文書、第1次世界大戦後にイスタンブルに創設された日本大使館および商工省が設立したコンスタンチノーブル(イスタンブル)日本商品館関連の公文書などを、国立公文書館、外交史料館、防衛省防衛研究所附属図書館などの国内の諸機関、個人所蔵の文書史料を探索・入手・複写してデータベース化し、その分析を行う。

2次史料として、第1に明治以降に刊行された新聞においてトルコ関連記事の探索・複写収集・分析を通して、日本・トルコ関係史の時系列的推移過程を明らかにする。調査可能な新聞を全て対象とするが、既に昭和30年までの新聞記事データベースを自社で構築した『読売新聞』を基軸として、その他の新聞記事の探索を行う。第2に、雑誌に関しては、新聞と同じ作業も可能であるが、実際に日本・トルコ関係に特化して2つの専門誌の探索・複写収集・分析を行う。具体的には、両誌ともに大正~戦前期の日本・トルコ関係史の基本的史料である、日本とトルコとの間に外交関係が構築後に両国の親善友好目的で東京に創設された日土協会の機関誌『日土協会会報』(全28号、1926~1945年)及び大阪に開設された日本とトルコとの貿易振興組織である大阪商工会議所管轄下の日土貿易協会によってイスタンブルにおいて出先機関として設けられたコンスタンチノーブル(イスタンブル)日本商品館の機関誌である『コンスタンチノーブル日本商品館館報(後にイスタンブル日本商品館館報と改称)』(全90号、1930~37年)およびタイプ印刷のパンフレット類の探索・複写収集・分析調査を行う。

(2) トルコ語史料部門

本部門においては、先行して19世紀末における日本・トルコ関係史を研究のためにトルコ共和国イスタンブルの総理府古文書総局、諸図書館において古典トルコ語であるオスマン語(アラビア文字表記のトルコ語)史料調査に実績を有している研究代表者を中心しながら、研究代表者の知己である、複数

名のトルコ人研究者たち、またトルコ人研究者は上記に限ることなく、適宜必要に応じて研究協力者として参画を願うこととする。トルコ人研究者とはEメールなどで日本から常時緊密な連絡を取り合いながら、さらに本年度は研究代表者が短期集中してトルコに出張して、トルコにおける1次史料・2次史料の発掘・複写収集・分析調査を行う。

1次史料として、19世紀末からの日本・トルコ関係公文書史料の所在調査・複写収集・分析調査を行う。第1に1922年に至るオスマン帝国の公文書史料については、既に研究代表者の先行研究によってイスタンブルの総理府古文書総局オスマン文書館所蔵分の約900点の手書きオスマン語文書の現物確認と複写収集を終えている。これらに関して、上記のトルコ人研究者と協力して分析・整理・現代トルコ語への校訂を行ってデータベースの構築を図る。その他の機関に所蔵されるオスマン語文書については、トルコ人研究者に委託して所蔵調査・複写収集を進める。第2に1923年以降のオスマン帝国の後継国家たるトルコ共和国の公文書史料のうち、アンカラの総理府古文書総局共和国文書館所蔵の公文書について、所蔵調査・複写収集・分析を進める。

2次史料として、第1に新聞史料について、エルトゥールル号事件以降の日本・トルコ関係史にかかわるオスマン語新聞記事の複写収集・分析調査を進める。トルコにおける日本・トルコ関係史研究において新聞・雑誌史料の利用度は極めて不十分である。第2に雑誌史料については、オスマン帝国~トルコ共和国期を通じて、図版・写真入り総合的文化雑誌で日露戦争報道に寄与した『Servet-i Fünun』(1891-1944年)最も代表的なパン・イスラーム主義雑誌である『Sebilür-Reşad (Sırat-ı Müstekim)』(1908-1956年)さらに『Resimli Kitab(1908-1913年)』における日本関係記事の探索・複写収集・分析を行う。

4. 研究成果

(1) 史料データベースの構築

研究目的に即して、研究の基礎となる日本語史料・トルコ語史料にかんして、発掘・収集して史料データベースを構築することができた。

日本語史料

日本・トルコ関係の起点とされる、日本を訪問したオスマン軍艦エルトゥールル号が帰途上に遭難した事件(1890年)にかんする日本語史料を徹底収集し、同事件を契機にイスタンブルへと渡った野田正太郎・山田寅次郎、および山田の勸言でイスタンブルに開設された中村商店、20世紀初頭に派遣されたトルコ駐在武官関係史料、第1次世界大戦を契機とした日本陸軍・海軍の地中海進出政策開

連史料、1928年に商工省によってイスタンブールに開設された日本商品館や両国間関係の推進のために設立された日土協会などの諸団体・機関の刊行物などの諸史料、戦前・戦中期の在日タタル系トルコ人および彼らと交流を通して日本のトルコ研究の創始者となった大久保幸次（1887～1947年）の手稿・写真など私文書史料を発掘・収集した。これらのうちデータベース成果として、『日土協会会報』を全てスキャン・電子化したDVD史料集とし、東京回教学校10周年記念写真帖を復刻印刷した。

トルコ語史料

1次史料として、イスタンブールの総理府古文書総局オスマン文書館（BOA）に所蔵され、現在閲覧可能な諸文書から、日本・トルコ関係文書（冊子体文書・紙片文書）約1,750点を全て電子複製し、データベース化することができた。新規文書は今後も公開されるがこのデータベースは今後の研究の大きな基盤となる。またアンカラの総理府古文書総局共和国文書館（BCA）所蔵のトルコ共和国期史料に関しては、トルコ人研究者の協力を仰いで、約200点あまりを収集したものの、公開制限もあって、今後の課題となった。

2次史料として、両国関係にかかわるオスマン語・トルコ語の新聞・逐次刊行物史料のなかで、特に著名なグラフ誌のうち、オスマン帝国～トルコ共和国期を通じて、図版・写真入り総合的文化雑誌で日露戦争報道に寄与した『Servet-i Fünun』（1891-1944年）、最も代表的なパン・イスラーム主義雑誌である『Sebilür-Reşad (Sırat-ı Müstekim)』（1908-1956年）、『Resimli Kitab』（1908-1913年）にかんして、その殆ど全てを現物・電子収集して、データベース化した。これらのうち『Resimli Kitab』にかんしてはDVD史料集として刊行した。また日本語史料探索途上で発見した東京回教印刷所が刊行したタタル系トルコ刊行物に関しても、研究協力者であるMerthan DUNDAR准教授と共同で、DVD付史料集として刊行したことも大きな成果である。

(2)関係史の推移過程

発掘・収集した史料をデータベース化したうえで、それらを分析して下記のように1890年以降の日本・トルコ関係史の推移過程について、新たな発見を得ることができた。

エルトゥールル号事件（1890年）

同事件に関して、既知・未知の日本語史料・トルコ語史料をデータベース化して分析することから、事件の推移や生存者のオスマン帝国送還に至るまでの詳細を解明し、生存者数をはじめ従前の情報の誤りを修正、新事実を付して、その成果をトルコにおいて学会報告し、また両国関係120周年記念日本語出

版物の監修を行った。

中村商店と山田寅次郎の役割

今まで日本・トルコ関係における重要人物と目されていた19世紀末以降のイスタンブールにおける山田寅次郎の活動を、徳富蘇峰宛書簡など、田健治郎などの日本人たちの旅行記やオスマン帝国公文書など埋もれていた諸史料を日本・トルコ両国において発掘・分析し、山田の自叙伝の叙述に誇張・錯誤を正して、山田の実際の役割を評価しなおし、大阪の中村家によってイスタンブールに開設された中村商店の位置や商業内容、および店主の中村健次郎およびその後継者である中村栄一の役割を解明して、学術論文およびトルコ語図書（脱稿済、2011年内刊行）としてまとめた。

20世紀初頭における陸軍トルコ駐在武官

今回の調査で、日本陸軍が両国間国交樹立前に1907年から12年まで森岡守成・佐藤小次郎・村岡長太郎の3名を駐在武官としてイスタンブールに派遣していた事実を見出し、日本・トルコ双方の諸史料を発掘、それらに基づき彼らの活動実態を解明した。

第1次世界大戦後の関係

従前、この時期の関係については全く不明とされてきたが、日本陸軍・海軍ともに、第1次世界大戦における戦勝国の立場を利用して地中海方面への進出を模索していた。そのためにシベリア出兵時にロシア収容所から解放した約1000名のオスマン帝国捕虜を日本によってイスタンブールへと護送する計画をたてながら、地中海において輸送船の平明丸がギリシア側に拿捕される事件を招いた。この「平明丸事件」にかんして、日本側の諸公式文書を探索・収集・分析してその詳細を解明し、トルコにおいて学会発表を行った。

戦間期における日本の対トルコ貿易政策

第1次世界大戦後に日本・トルコ間に初めて国交が締結されると、通商関係構築も推進された。従前まで、小幡西吉大使が招聘した近東貿易会議が研究されていたが、小幡大使は、さらに日本商品見本市を開催し、コンスタンチノーブル（イスタンブール）日本商品館設立を提唱していたことが、日本・トルコの諸資料によって確認された。こうして設立された日本商品館は、イスタンブールの出先機関として1937年まで大きな役割を担っていたことが、同商品館館報とパンフレット類、さらにはトルコ側の新聞・写真史料によって確認できた。この発見について、学術論文ならびにトルコ語図書（脱稿済、2011年内刊行）としてまとめた。

戦前の在日タタル人

従前、1938年に開堂した東京モスクに関する研究があったものの、その設立母体であった在日タタル人たち共同体の実施に関して不明確であったが、満洲から渡日したクル

バンガリーが東京で設立した東京回教団および 1927 年に同団が設立した東京回教学校・東京回教印刷所(後年、この施設に隣接して東京モスクが設立)にかんして、印刷所の出版物の殆どを発掘、回教学校の設立 10 周年記念アルバムを発掘して、これらに基づき、その実態を解明した。

また彼らを接触して日本におけるトルコ研究の創始者となった大久保幸次(1887~1947 年)氏の手稿・写真などの個人史料を発掘し、大久保の活動を明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 12 件)

三沢伸生、戦間期のイスタンブルにおける日本の経済活動(5)、東洋大学アジア文化研究所研究年報、査読無、45 号、2011、181-192。

駒井義昭・石井隆憲・三沢伸生、在日トルコ(タタール)系イスラーム教徒に関連する視覚史料のデータベース化事業、東洋大学アジア文化研究所研究年報、査読無、45 号、2011、171-180。

Nobuo MISAWA、Shintoism and Islam in Interwar Japan: How did the Japanese come to believe in Islam?, *Orient*, 査読有、46 号、2011、119-139。

三沢伸生・石丸由美・田健治郎のイスタンブル訪問(1896 年)、アジア文化研究所研究年報、査読無、44 号、2010、357-366。

石井隆憲・三沢伸生「戦後日本におけるトルコ(タタール)系格闘技選手に関する覚書」、アジア文化研究所研究年報、査読無、44 号、2010、335-340。

三沢伸生、戦間期のイスタンブルにおける日本の経済活動(4) - コンスタンチノープル日本商品館(イスタンブル日本商品館)に関する研究 -、アジア文化研究所研究年報、査読無、44 号、2010、341-356。

Nobuo MISAWA、Japon Ticaret Sergisi (1929-1937) : İstanbul'daki Japon İzleri / Japanese Trade Exhibition (1929-1937) : Japanese Traces in Istanbul、1453 : *Istanbul Kultur ve Sanat Dergisi*, 査読無、No.7、2010、39-45。トルコ語 & 英語

メルトハン・デュンダル、三沢伸生、イスタンブルの中村商店をめぐる人間関係の事例研究 - 徳富蘇峰に宛てられた山田寅次郎の書簡を中心に -、東洋大学社会学部紀要、査読無、46 巻 2 号、2009、181-220。

三沢伸生、戦間期のイスタンブルにおける日本の経済活動(3) - コンスタンチノープル日本商品館(イスタンブル日本商品館)に関する研究 -、アジア文化研究所研究年報、

査読無、43 号、2009、45-64。

Nobuo MISAWA、The Influence of the Ottoman Print Media in Japan : the linkage of intellectuals in the Eurasian World、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科『イスラーム世界研究』、査読無、第 2 巻 2 号、2009、36-42。

Nobuo MISAWA、Ertuğrul Fasiyası ' na dair hakikatler / Some realities about Ertuğrul Tragedy、1453 : İstanbul Kültür ve Sanat Dergisi、査読無、No.4、2008、158-164。トルコ語 & 英語

Nobuo MISAWA、Goknur AKCADAG、The first Japanese Language education in the Ottoman Empire (1891-92) : Shōtarō NODA ' s lectures in the Ottoman Military School、東洋大学社会学部紀要、査読無、46 巻 1 号、2008、219-248。

[学会発表](計 4 件)

Nobuo MISAWA、Birinci Dünya Savasi ' ndan Sonraki Türkiye-Japonya İlişkileri (= 第一次世界大戦後の日本・トルコ関係) XVI. Turk Tarih Kongresi (= 第 16 回トルコ歴史会議)、2010/09/20、アンカラ(トルコ)。トルコ語

Nobuo MISAWA、Shintoism and Islam in Interwar Japan、World Congress for Middle Eastern Studies(=WOCMES)、2010/07/20、バルセロナ(スペイン)。

三沢伸生、エーゲ海における平明丸抑留事件(1921 年)、日本中東学会第 26 回年次大会、2010/05/09、中央大学多摩キャンパス。

Nobuo MISAWA、Japonca Kaynaklar acisinden Ertugrul Faciasi (1890) (= 日本語史料に基づくエルトゥールル号事件(1890 年))、Uluslararası Ertugrul Firkateyni Sempozyumu(= 国際エルトゥールル号事件シンポジウム)、2010/3/9、イスタンブル(トルコ)。トルコ語

[図書](計 7 件)

Nobuo MISAWA、*Türk-Japon Ticaret İlişkileri* (= 日本・トルコ通商史) İstanbul Ticaret Odası (= イスタンブル商工会議所) 2011 (脱稿済) 170 頁。トルコ語

Tokyo Muslim School Album (1927-1937), Tokyo: Asian Cultures Research Institute, 2011, 48 頁。

日本トルコ文化協会(編)、絆 - トルコと日本の 120 年 -、京都: 日本トルコ文化協会、2011 年、83 頁。

後藤明、木村喜博、安田喜憲(編)、西アジア(朝倉世界地理講座 - 大地と人間の物語 - : 6) 東京: 朝倉書店、2010、465 頁。

Ali Merthan DUNDAR, Nobuo MISAWA, *Books in Tatar Turkish published by*

Tokyo ' da Matbaa-i Islamiye (DVD ed., Ver.1)、Tokyo:Toyo University, Asian Culture Research Institute、2010、40 頁+ DVD。

三沢伸生(監修) 日土協会『日土協會會報』(CD-ROM 版,Ver.1) 東京:東洋大学アジア文化研究所、2009、32 頁+ CD-ROM。

東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター(監修) 東洋倶楽部『東洋』(CD-ROM 版, Ver.1) 東京:東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター、2009、24 頁+ CD-ROM。

〔その他〕

ホームページ

なし

DVD 史料集

DVD Resimli Kitab (Ver 1), Tokyo: Asian Cultures Research Institute, 2011.

6 . 研究組織

(1)研究代表者

三沢 伸生 (MISAWA NOBUO)

東洋大学・社会学部・教授

研究者番号: 80328640

(2)研究分担者

石丸 由美 (ISHIMARU UMI)

東洋大学・アジア文化研究所・客員研究員

研究者番号: 80408989

(3)連携研究者 (0)